

## Abstract

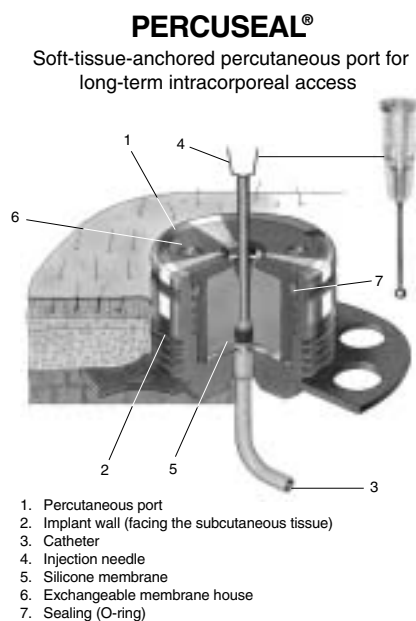
## 血友病, von Willebrand 病または重症 $\alpha_1$ -アンチトリプシン欠乏症患者の静脈内投与のための新しい経皮ポートシステム Percuseal の使用経験

### Experience with a new percutaneous port system, Percuseal<sup>®</sup>, for intravenous injection in patients with haemophilia, von Willebrand disease and severe alpha<sub>1</sub>-antitrypsin deficiency

E. Berntorp, E. Piitulainen, S. Lethagen, E. Mattson, L. Tengborn and T. Mätzsch

我々は血友病 A, 血友病 B, von Willebrand 病または $\alpha_1$ -アンチトリプシン欠乏症患者 13 例に静脈アクセスを容易にする新しいポートシステム (Percuseal<sup>®</sup>) を埋め込んだ。このポートシステムは, Port-a-Cath などの皮下ポートシステムとは異なり, 器具上部が皮膚の上に突き出ている。したがって, 患者は皮膚を貫通させることなく自身の目で確認しながら容易にポートメンブレンを穿刺することができる。しかし, 今回の検討では合併症が多数発生した。これらは主に局所感染の反復 (5 例) によるものであり,

うち 3 例ではポートの交換, 2 例ではポートの永続的な抜去が必要であった。また, 他の 1 例では運動時に不便であるという理由からポートを抜去した。さらに, 他の 1 例では全身性の重症感染症が発生し, 脊椎炎をきたした。このように感染症の発生率は高かったが, ほとんどの患者はこの器具を大変使い易いと判定した。しかしながら, 今回の検討でみられた有害事象の発生率をみる限り, 現在の型ではこのポートの日常使用は推奨できない。ポートをさらに小型化し, 感染防止のためのキャップを取り付けるなどの改良を加えることにより, これらの患者の定期補充療法 (予防投与療法) においてより便利でかつ経済的にも有益性の高いポートになると考えられる。



**Fig. 2.** Schematic drawing showing the percutaneously implanted Percuseal port (kindly provided by Jan Svensson, Percuseal Medical Systems AB).

**Table 1.** Study material.

Diagnosis	Age at implantation	Follow-up time (months)	Port still in use as on July 2002
Haemophilia A, severe	22	26	No
	61	51	Yes
	28	5	No
	37	32	Yes
Haemophilia B, severe	40	51	Yes
	65	23*	Yes
Haemophilia B, severe	7	32†	
		27*	Yes
Haemophilia B, moderate	55	17†	
		50	Yes
VWD type 2B	57	17*	Yes
		29†	Yes
AAT deficiency	37	14	No
		56	Yes
		54	Yes
		54	28

\*First port; †Replacement port; VWD, von Willebrand disease; AAT, alpha<sub>1</sub>-antitrypsin.